

# 2021年度の教育活動等に対する学校評価書

2022年3月10日  
学校法人聖隷学園  
聖隷クリストファー大学附属  
クリストファーこども園  
総園長 太田 雅子  
学校関係者評価委員

## 1. 園目標

<愛>	神様と周りの人に愛されていることが分かり、自分を大切にすることが出来る気持ちをもつ。
<思いやり>	様々な人々との関わりを通して、思いやりの気持ちを育み共に生きる喜びを知る。
<たくましさ>	自然の中で思いきり遊び、感性やたくましい心と体を育む。
<いのち>	食に関わる体験を積み、いのちがつながりあい、支えられていることに感謝する。
<表現力>	自ら様々なことに取り組み、考えたり表現する力を身につける。
<自立>	生活に必要なことが分かり、自分から身に付けようとする。

## 2. 2021年度の重点課題（事業計画）

- ① PYP 認定に向けて（3年計画の1年目）
  - ・PYP 認定申請のスケジュール作成（随時見直し・更新）・実施
  - ・職員に対する PYP 研修の実施、異文化・異言語プログラム(活動内容)の見直し ・小学校との PYP 教育プログラムの連携と協働
- ② 3歳児の定員確保（満3歳児クラスの拡充）
  - ・満3歳児クラス拡充による保育室の再構成と0～1歳児の保育環境の見直し
- ③ 子育て支援環境の充実、職員研修の実施（0～2歳児の定期的な受け入れ）
- ④ 安全・危機管理体制の見直し
  - ・感染症対策の継続とマニュアルの見直し、園庭側出入口の安全確保
- ⑤ 森を活用した自然活動の実施（3年計画の2年目）
  - ・課内イングリッシュ活動を森で実施し、探求的な学びを深め、SDGs への関心を高める
- ⑥ 園庭の再構成（次年度の園庭計画に向けた準備期間として）
  - ・次期活動計画の作成、現状設備の点検及び危険箇所等の整備
- ⑦ 小中高大接続を意識した募集・広報活動の強化
  - ・卒園児及び外部向けの広報誌の作成、発行（年1回）、一ホームカミングデーの実施
- ⑧ 専門性や得意分野に合わせて各リーダー、教諭、クラスリーダー補助（準職員）、保育補助スタッフ（無資格）の業務・役割の明確化を行う。（継続）
  - ・確保が困難な時間帯（早番・遅番）に勤務する職員の時給改定 ・保育補助スタッフの充実（ICT、記録スタッフ・無資格者の資格取得応援）
- ⑨ 園で定めた研修テーマに係る研修及びキャリアアップに係る自主的な研修の受講を支援する。
  - ・園で定めるテーマ（自然活動、言語・想像力の獲得）に関する研修への職員の積極的な派遣
  - ・キャリアアップに係る自主的な研修の受講の支援（費用、勤怠の調整等）

### 3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

(※評価は、○…目標どおり達成できた、△…十分に達成できていない・次年度の課題である、で表している。)

重点課題	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
教育・保育方針	<p>[スタッフ間の連携・チーム作り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性や得意分野に合わせて各リーダー、メンター、教諭、クラスリーダー補助（準職員）、保育補助スタッフ（無資格）の業務・役割の明確化を行う。（継続）</li> <li>・確保が困難な時間帯（早番・遅番）に勤務する職員の時給改定を行う。</li> <li>・保育補助スタッフの充実を図る。（ICT、記録スタッフ・無資格者の資格取得応援）</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動計画の通りに実行はしたが、機能的面においては不足している部分がある。次年度に向けて改良・継続を行う。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園全体が決して少人数ではない中で「少人数保育」をどのように実施するのか、相当なご苦労があることとお察しします。機能的な視点から考えると、集団の大きさ、活動範囲（生活圏）も、発達段階に応じてかなり違いがあるのだらうと思います。</li> <li>・個々の子ども達に合わせた丁寧な保育をしてくださっていると思います。</li> </ul>
	<p>[聖書（み言葉）について学ぶための機会を設ける]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各保育教諭が聖書物語を子ども達に語るができるように、研究・準備をする。</li> <li>・自主的な聖書の学びの会を持つ。</li> <li>・基本理念をよく理解し、キリスト教保育に基づいた教育保育活動や園運営に取り組む。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度は各保育者が聖書物語を担当できるようにサポートしてきたが、今年度はサポート体制が十分ではなかった。</li> <li>・中高宗教部副部長の仲義之先生に加えて、聖隷三方原病院チャプレンの佐藤しのぶ先生による聖書の学びを実施することができた。異なった視点から聖書に関しての話を聞くことができ理解が深まった。職員のアンケート（自己評価）などにおいても肯定的な反応が見られた。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キリスト教保育」を大切にしてくださり嬉しく思います。聖書の学びにおいて、導き手の違いによって伝わり方が違うということもあると思います。それぞれご自分へのメッセージとして聖書をお読みいただくとよいと思います。</li> <li>・子どもが園でどんな聖書物語や讃美歌を歌っているのか、保護者も知りたいと思います。</li> </ul>

重点課題	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
特色ある保育の展開	<p>[園庭の再構成(現状点検と課題の抽出、次期活動計画の策定)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講師(井上寿先生)の年間実施計画を立て、園庭の整備及び次期活動計画の策定をする。(2021/8/8、2022/1/8、2022/3/30)</li> <li>保護者の理解と協力を得るように働きかける。研修及び整備のための作業(園庭ボランティア)を行う。(年2回)</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年も継続して、井上先生の指導の下、保護者・職員が協力をして整備を行なった。子どもたち積極的に体を動かし、体力・運動能力を向上させていることが、体力測定結果から見られるようである。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者・職員が協力して保育環境の整備に取り組まれていることは意義深いと思います。園庭づくりに関する井上先生のお考えについて共有できる取り組みがなされていれば、家庭での育児にあたって、きっと参考になると思います。</li> <li>自分の力でやり遂げたり、何かを考え作ったり、育てたりいろいろな経験ができる園庭だと思います。一方で死角を作ることにもなるので、安全にも配慮して整備をしていただきたいです。</li> </ul>
	<p>[森を活用した自然活動の実施(3年計画の2年目)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課内イングリッシュ活動を森で実施し、探求的な学びを深め、SDGsへの関心を高める。</li> <li>職員研修を実施し、森の活動についての理解を深める。(ぐうた Labo 小西貴士先生)</li> <li>保護者の理解と協力を得るように働きかける。(情報提供、ボランティア)</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>山梨県・清里にある「ぐうたら村」(講師・小西貴士先生)での研修および映画「マイクロプラスチック」視聴に多数の職員が参加することができ、園全体でSDGs(持続可能な開発目標)についての学びを深め、実践に移すことができた。それによって、園庭における生き物との出会い(エンカウンター)の場を設け、子どもたちの学びへと繋がった。次年度はさらに実践のための具体的計画を立てて行きたい。</li> <li>課内イングリッシュ活動を定期的に大学前の森「聖隷の森〜エムズガーデン」にて実施し、子どもたちの自然と触れ合う機会が増え、自然への関心が高まった。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な「いのち」との出会いの機会は、成長の過程で大切にしたいことですが、子どもたち一人ひとりの関心とそれぞれの時を見極め、どれだけ寄り添えるだろうかと思うと、子どもたちに関わりをもつ大人の一人として反省させられます。</li> <li>森での活動を通して自然の中での学びをすることができて、とても良い経験だと思います。</li> </ul>

重点課題	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
特色ある保育の展開	<p>[運動遊びを通して身体的発達を促す]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コアキッズ体操、室内・屋外遊具などでの遊びを中心に、身体的機能を高める遊びを保育に取り入れて実践する。</li> <li>・運動発達の測定を行い、育ちについて可視化し、保護者にフィードバックする。</li> <li>・感覚ー運動発達がどのように認知、非認知能力と関係するか、その道筋をたどり各年齢の保育でどのような手だてをとると良いのかを研修する。</li> </ul> <p>(講師：聖隷クリストファー大学 和久田佳代教授、伊藤信寿教授、NPO 法人クローバー自立支援エンターしまもと 代表 野藤弘幸先生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の在り方について考察し、保護者と共有する。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野藤弘幸先生 (NPO クローバーしまもと 代表) による研修 (2 回) から、発達支援 (個々の身体・運動的状态から困り感を探る) についての学びを深めることができた。</li> <li>研修の振り返りを兼ねて、野藤先生の書籍の内容について職員間で話し合い、確認をしている。</li> <li>・全職員が研修に参加することで、課題や方向性を共有することができたことは収穫であった。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教員等の園外の専門家との協働の機会は、保育に関する視野を広げ、新しい気づきが促されるための意義深い取り組みだと思えます。</li> </ul>
	<p>[言語・思考力の発達を促すための取り組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や物語を楽しみながら遊びの世界を広げ、言語感覚・想像力を育む。</li> <li>・昨年度に実施した高山静子先生 (東洋大学ライフデザイン学部教授) の研修を基に、子どもの発達や保育のねらいに応じた絵本の選別や絵本を文化として捉えるための研修を実施し、職員間の共通認識を図る。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修後 (講師・高山静子東洋大学教授)、目的に沿って絵本を計画的に揃えることができた。</li> <li>・絵本文化を園に定着するために今後計画 (園内研修等) を立て、実行に移したい。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の優れた講師による研修をもとに、保育についてともに学ぶ機会があることはよい取り組みだと思えます。</li> <li>・絵本から学ぶことはたくさんあると思えます。園にたくさんの本がすることはとてもうれしいです。</li> </ul>

重点課題	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
特色ある保育の展開	<p>[PYP 認定校に向けて(3年計画の1年目)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PYP 認定申請のスケジュール作成(随時見直し・更新)、実施</li> <li>・異文化・異言語プログラム(活動内容)の見直し</li> <li>・職員に対する PYP 研修の実施</li> <li>・小学校との PYP 教育プログラムの連携と協働</li> <li>・保護者への説明、地域のニーズ調査の実施</li> <li>・IB と SDGs の考え方を基に、キッチンとの連携による食品ロスについての学びを深め、具体的な取組みを検討し実施する。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際バカロレア初等教育プログラム(IB/PYP)の申請を行った。それに向けての定期的な勉強会をリーダーを中心に実施した。また、現段階でできる取組みを行った。しかし、部分的な実践であったため、今後は全職員への周知や意識を高めるための方法を検討し、研修の時間等を確保する必要がある。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校への継続性のあるカリキュラムが、単なるステップアップの視点のみでなく、異年齢交流の機会を通して心の豊かさが育まれると嬉しく思います。そのために、保育者が小学生・中学生の成長の姿をイメージできるようになれるとよいと思います。</li> <li>・小学校との関わりをもう少し密にしても良いのではないかと思います。こども園から小学校へ通いたいと思える家庭が増えるように、小学校の魅力をこども園にもっと伝えることができると良いと思います。</li> <li>・PYP の目指す子どもを育てるためには、職員自身もまたそうなる必要があります。本当に大切な子どもとの関わりを厚みを増し、保護者の理解を得ながら行事の見直しや仕事の仕分けなどを行い、職員の負担軽減、研修時間の確保ができるとよいと思います。</li> </ul>
保育環境の充実	<p>[0～2歳児クラスの保育環境(育ちや学びを支える)について研修し、実行に移す] <u>継続</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各保育者が園内研修から気づいたことをもとに、保育室の環境を改善させ充実させる。</li> <li>・満3歳児クラス拡充による保育室の再構成と、0～1歳児の保育環境の見直しを行う。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修は1回に留まった。一部の職員が他園への見学を行い報告会を設けたが、今後は計画的・継続的に見学をすることにより、自園の強み・改善すべき点を見出して行きたい。</li> <li>・乳児保育室にふさわしい構造・機能性について、今後研究・検討を行い、新園舎建設に繋げて行きたい。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0～2歳児の育ちのための環境は、幼児期とは違う配慮が必要だということは理解できますが、幼児たちが自分たちより小さい乳幼児期子どもたちと交流できることも大切だと思います。</li> <li>・自由に選べることと主体性をイコールとせず、年齢に応じた環境の構成に努めていただきたいと思います。</li> <li>・0～2歳児と3～4歳児の保育環境の構成が異なるというお話を聞いて、こども園での保育の大変さを知りました。子ども達にとって良い環境となるよう、見直しを含めた検討をすすめていただきたいと思います。</li> </ul>

重点課題	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
子育て支援・保護者との連携	<p>[ラーニング・ストーリーを活用する] 継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の子どもたちのラーニング・ストーリーから育ちや学びを捉え、保護者懇談会の資料として活用する。保護者からのフィードバックも参考にしながら、次の保育の手立てを考える。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育記録に対する個々の職員のスキルは上がって来ており、記録作成のための時間確保もできている。</li> <li>「ラーニング・ストーリー」の研修（講師・大宮勇雄先生）に多くの職員が参加でき、新たな視点を与えられた。互いの記録を読み合ったり、記録を用いてのディスカッションを通して保育に活かす記録を目指したい。また、IB/PYPのアセスメントと融合させての方法を考え、実践したい。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの成長に寄り添うことと同様に保護者の思いに寄り添うことができるよう、子どもたちの日々の様子の受け止め方を共有する方法として定着することを期待します。</li> <li>ラーニング・ストーリーは子どもの成長を知る機会になっています。卒園した後も子どもと一緒に見返し、成長を振り返り、考えるよい機会になっています。</li> </ul>
	<p>[子育て支援環境の整備、支援内容の充実]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プログラム・環境の整備を行う。</li> <li>担当者の研修を行う。</li> <li>学童保育実施に向けての検討</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域子育て支援のプログラムは十分に整備できなかった。</li> <li>学童保育実施に向けては、市への相談等は行ったが、場所・担当者・費用等などの具体的検討まではなされなかった。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援の対象は、子どもを見ることよりは、親たちのニーズに寄り添うことが中心になるのではないかと感じている。</li> </ul>
入園児募集	<p>[小中高大接続を意識した募集・広報活動の強化]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒園児及び外部向けの広報誌の作成、発行（年1回）を行う。</li> <li>ホームカミングデーの実施、同窓会組織の構築する。</li> <li>学園小学校についての園内説明会、模擬授業を実施する。</li> <li>ホームページの内容を随時見直し、閲覧者が園や学校に足を運ぶよう工夫する。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページを通しての広報活動は十分に行うことができなかった。情報の受け手（30代親世代の関心・感覚に合わせた）を視野に入れた広報手段の全面的な見直しを行う予定である。</li> <li>卒園児を対象とした一貫校を意識しての広報活動についてはまだ十分にできていない。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>聖隷学園が一貫して大切にしている教育方針が、小中高校においても感じられ評価されることが、やがては、こども園への期待を高めることになるのではないかと思います。</li> </ul>

重点課題	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
安全・危機管理	<p>[感染症等の拡大を防ぐための対策を図る]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策</li> <li>・不測の事態に備えた保護者への速やかな連絡システムの構築</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルス感染防止のための方法は徹底して実施することができた。</li> <li>・地震等の災害に対する訓練や保護者への連絡方法の整備を行うことができているが、実際の災害を想定して緊張感を持つための備えをさらに行いたい。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この部分は、マニュアル化が有効であり、職員の共通理解の日頃から意識されるよう継続して取り組むことが大切だと思います。</li> <li>・安心して子どもを通わせることができます。感染症対策では、ランチの時間はパーテーションなどを活用して、楽しく食べるための工夫があってもよいと思います。子どもが集中（黙食）して食べるのは難しいかもしれません。</li> </ul>
スタッフの資質向上・連携	<p>[各職員のキャリアアップのための、自発的な研修を促す] <u>継続</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアアップに係る自主的な研修の受講の支援（費用、勤怠の調整等）</li> <li>・資格取得支援</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインでの研修が増え、職員が研修に参加できる機会が増えた。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な研修が、知識やスキルを身につけるためでなく、新しい出会いを感じ感化されるようなものであれば嬉しく思います。</li> </ul>
	<p>[環境（室内・園庭）についての園内研修を定期的実施する] <u>継続</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園で定めるテーマ（自然活動）に関する研修への職員の積極的な派遣</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然活動に関する研修は実施できた。言語・想像力に関する研修から保育・子どもの育ちを十分に保障できるように今後して行きたい。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の中に、心理士やST、OTなどの保育以外の専門性をもつ人がいるとよい刺激になると思います。</li> <li>・自然活動や食育など、小さい時に経験したことは子どもも覚えているので良いことだと思います。</li> </ul>
	<p>[園児や保護者との適切な関わりについて共通理解を図る]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権を尊重した関わりの共通理解と実践</li> <li>・講師を招いての園内研修（ハラスメント研修を兼ねる）の実施</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメント研修（鈴木光男・聖隷クリストファー大学教授）や太田総園長による人権擁護・虐待防止研修を実施した。事後アンケートからは学びの成果があったようである。</li> <li>・「関わりの専門職」としての学びを深めるために全職員が書籍『保育者の関わりの理論と実践（高山静子著）』全職員が個別に手に入れ、内容を共有することができた。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことだけ考えるのではなく相手の立場を考える習慣を身につけたいと思いつつ、心に余裕のないときには忘れがちだと反省させられます。</li> <li>・良い書籍は読みたい保護者もいると思います。先生方が学んだことなどをぜひ園だよりなどに掲載していただきたいです。</li> </ul>

重点課題	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
園経営全体の向上	<p>[保育準備・事務的作業の環境整備、ICTの活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した職員の情報共有、会議や記録等の簡略化を行う。</li> <li>タイムマネジメントを意識した個人作業スペースの整備を行う。</li> <li>ICTによる勤務時間の管理、時間外労働時間の把握</li> <li>ノンコンタクトタイムの確保と勤務時間内での作業効率化</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年によってノンコンタクトタイムを取ることができなかった。各学年リーダーと連携し、実情を把握して改善に努めたい。</li> <li>作業スペースやフリー職員の配置については計画通りに行うことができ、良い効果を生んだ。</li> <li>職員の情報共有については専用の共有アプリの導入と運用が大変効果的であった。今後もより機能を充実させ、情報を整理していきたい。</li> <li>アプリでの情報共有によるメリット・デメリットを精査し、より効果的な共有を検討したい。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般的な働き方の見直しについての取り組みを否定するものではありませんが、仕事は、職員にとって心の消耗を感じられるものか、創造的な喜びを感じられるものなのかが問われているような気がします。</li> </ul>
	<p>[休憩場所の設置]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全職員が、休息を確実に取れるようにする。</li> <li>休憩室（ユニットハウス）を設置し、心身のリフレッシュを図る。</li> <li>休憩時間の充実を図る。（教職員の人生を豊かにするための活動、ヨガ、英会話等）</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>休憩室で休憩を取ることが習慣化されてきているが、自覚に欠けると他の仕事を優先しがちなので、引き続き一人ひとりの意識と全体の環境が必要。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中に、自分を見つめ、過去を振り返り、未来を願う時間をもつことが大切だと思います。それは「祈り」のときと言えるかも知れません。</li> </ul>